

上水道ビジネスの海外事業戦略：ネットワーク・ガバナンスの戦略的構築

本多, 信幸

<https://hdl.handle.net/2324/1654641>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏名	本多信幸（ほんだ のぶゆき）			
論文名	上水道ビジネスの海外事業戦略 ーネットワーク・ガバナンスの戦略構築ー			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	石田修
	副査	九州大学	教授	永田晃也
	副査	九州大学	准教授	朱穎

論文審査の結果の要旨

本論文は、水事業の民営化と水市場の形成、そして、その世界市場の構造変化に注目し、上水道ビジネス市場の動向と企業活動の事例研究の分析に焦点を当てるなかで、上水道ビジネスにおける海外事業戦略を考察している。

本論文は、以下のような構成をとっている。まず、2000年代の水ビジネスの市場動向を分析し、なかでも、上水道事業の市場のダイナミズムに注目する。次に、上水道ビジネスに関連するガバナンスの潮流・論点、経営戦略に関連する先行研究を行なう。その上で、研究課題と方法を提示し、事例研究から、ネットワーク・ガバナンスの形成、ネットワークを活用する能力の向上、市場環境に適応したビジネス・モデルの構築という要因を導き出す。

本論文の意義は、民営化による途上国における水ビジネス市場の拡大、水メジャーといわれる大手5社の市場シェアの低下と新たな参入企業の増加という事実注目し、市場構造の変化の理由を以下の3つの事例研究を通して明らかにしたことである。すなわち、第1に、水メジャーのなかのVeoliaとSuezの事例研究から、それらの世界市場での地位低下の理由として、水メジャーのグローバル戦略が途上国との摩擦と事業リスクを生み出していることを提示した。第2に、フィリピンにおける2つの民営化プロジェクトであるMWSIとMWCIという事例を対比する中で、後者が成功した要因として、幅広いステークホルダーが組み込まれたネットワーク型ガバナンスの形成があることを指摘した。そして、第3に、日本の中小企業の上水道ビジネスへの国際事業展開の事例を通して、その成功要因として、ネットワーク型ガバナンスの形成を通じたビジネス・モデル構築があることを明らかにした。

以上の理由により、本論文調査会は、本多信幸氏により提出された論文「上水道ビジネスの海外事業戦略ーネットワーク・ガバナンスの戦略構築ー」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。